

～RSウイルスのお話～

毎年、秋から冬にかけて流行するRSウイルスが、今年は7月頃からとても流行っています。

◎RSウイルスは、細気管支炎や肺炎の原因になるウイルスです。

乳幼児がかかると重症化しやすく、他の呼吸器疾患ウイルス（インフルエンザやライノウイルスなど）に比べて重症化し入院する率も高いです。毎年秋～冬に流行して、保育園の小さい子クラスで感染が広がり、クラスの半分以上が欠席、入院も数人、などという状況があちこちの保育所で見られています。

RSウイルスは、普通の風邪とおなじように、咳やくしゃみで飛び散る飛沫感染や、ウイルスが手指や洋服について拡がる接触感染があります。RSウイルスのお子さんを抱っこして鼻水がエプロンなどについたお母さんが他のお子さんを抱っこするとそこで感染したりもするわけです。

◎潜伏期間は4～6日、最初は咳・鼻水の軽い症状ですが、その後発熱（3～5日間ほど）、悪化する咳や喘鳴（ゼイゼイ）などに進展していきます。熱がでてから3～5日目あたりが熱や呼吸が一番つらそうなことが多いです。細気管支炎になると、喘息発作のようにゼイゼイして苦しそうな呼吸になります。肺炎や中耳炎の合併もみられることがあります。



このウイルスは何回でもかかります。1シーズンに2回かかるお子さんもいます。初めての感染が一番重症になることが多いですが、呼吸器の弱いお子さん（喘息の患者さんなど）の中には毎回重症化して入院する子もいます。年長児では普通の風邪症状（咳鼻水発熱）で終わってしまうこともありますが、生後0.1.2か月の乳児期早期に罹患すると、無呼吸発作などを起こし、命をおとすことがあります。大きい子から赤ちゃんへ感染をさせないような配慮が必要です。

◎このウイルスに対して特別な治療法・予防法は今のところないため対症療法が主になります。

〔重症化が予想される赤ちゃんに限って（心臓や肺に基礎疾患があったり早産児）、RSウイルスモノクローナル抗体（シナジス）を流行開始時期にあわせて毎月筋注することはありますが〕

頻繁な咳込みやゼイゼイ苦しそうな時は、吸入をしたり鼻水や痰を吸引したりして、病気がおさまってくれるのを待ちます。当院では、年齢・症状に応じて、吸入器の貸し出しをしております。朝と寝る前に、お家で吸入することで、咳や呼吸が少し楽になります。

ミルクの飲みが悪くなったり水分摂取ができない時は、点滴で水分補給が必要になる場合もありますが、家庭での水分補給が一番大切です。また咳込みやゼイゼイの時は、お子さんを縦抱きにするか、夜間は上体を起こしてもたれかけるように寝かせると少し楽になります。

家族みんなで力を合わせてがんばりましょう!

特に生まれて間もない赤ちゃんがいる場合には、赤ちゃんへ感染させないように注意しましょう。

赤ちゃんが感染すると、命にかかわる場合もありますからね。

カゼをひいているお兄ちゃんお姉ちゃんは赤ちゃんに近づかない。お父さんお母さんも咳がでているときはマスクをしましょう。また、鼻水の付着した洋服や手などを介して赤ちゃんに感染するので、兄弟がカゼをひいているときには、お父さんお母さんが赤ちゃんを抱っこする際に手洗いや着替えをするなどの配慮が必要です。

